

資 料

幼稚園教育実習における学生の学びに関する意識調査

永野典詞・香崎智郁代

Awareness survey on student learning in kindergarten educational training

Tenji NAGANO・Chikayo KOUZAKI

〔要約〕本研究の目的は幼稚園教育実習の事前、事後指導を踏まえて、これまでの学びを振り返ることで、学生の幼稚園教育実習における学習ニーズを明らかにすることである。

幼稚園実習終了後の学生に「幼稚園教育実習（授業）の学び」「幼稚園教育実習以外の授業の学び」について「役立ったこと」「学んでおいて良かったこと」、「もっと学んでおきたかったこと」、また、「幼稚園教育実習（現場実習）の自己評価」についてアンケート調査を行った。その結果、幼稚園教育実習の授業は十分に役立っていること、特に実習の意義と目的や指導計画の立て方、実習上の諸注意などは高い値となっていた。さらに、授業以外の学びでも、子どもの発達に関する科目、保育実習指導、音楽関連科目などが役立つ度合いが高い結果となった。

キーワード：幼稚園教育実習 学習ニーズ 保育実習指導

1. はじめに

1.1. 目的

本研究の目的は幼稚園教育実習¹⁾の事前、事後指導を踏まえて、これまでの学びを振り返ることで、幼稚園教諭一種免許状・保育士資格の取得（以下、「免許・資格取得」という。）を目指す、本学学生（以下、「学生」という。）がこれまでの学習で「学んでおいて良かったこと」「もっと学んでおきたかったこと」など、学生の幼稚園教育実習の授業における学習ニーズを明らかにすることで

ある。また、学生の学習ニーズから今後の幼稚園教育実習の授業における大学での学びについて新たな示唆を得たいと考える。

本学では、幼稚園教諭一種免許状取得のため、3年生後期に10日間と4年生前期に10日間の幼稚園現場実習として、幼稚園教育実習（現場実習）を実施している。幼稚園教育実習の授業は以下のシラバス（3年生前期のシラバスより一部抜粋）に沿って行っている（表1参照）。

表1 幼稚園教育実習シラバスの一部抜粋

授業概要	・保育実習で学んだことを土台にして、実習の基本的事項及び、幼稚園が学校教育であることを再確認する。
	・模擬保育を通して幼児教育について学びながら援助のポイントを体感し、知識の共有化を図る。
	・設定保育（部分・一日）の指導計画作成と教材作成を行う。
授業計画	1. オリエンテーション：実習の理解
	2. 実習の意義・目的：幼稚園実習の目的を再確認する
	3～5. 指導計画の立案：指導計画の立て方を再確認する、指導計画の振り返り、指導計画作成・完成
	6. 幼稚園実習の諸注意：実習上の諸注意について再確認、オリエンテーションの準備をする（マナーや接遇などの再確認）
	7～15. 模擬保育：幼稚園実習における子どもとの関わり、保育・幼児教育実践について
到達目標	・指導案の書き方を熟知し、全体計画に基づいた指導計画をたてることができる。
	・模擬保育を通して、遊びの援助のポイントを理解し活用することができる。
	・幼稚園教育実習の意義と目的を理解し、幼稚園教育実習に活かすことができる。

幼稚園教育実習の授業は、この科目単独での教育・指導だけでなく、免許・資格取得のために必要な科目として、教科に関する科目、教職に関する科目、教科又は教職に関する科目を総合的に学ぶことが重要である。

また、一般教養科目、保育実習指導（保育実習を含む）やその他、保育に関する科目や社会福祉、子ども家庭福祉、子どもの発達、子どもの保健など、保育士養成に関する関連科目も含めて複層的に学びを積み重ねて、1年次から4年次までの学びの集大成として幼稚園教育実習に取り組むようにしている。

さらに、文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説（平成30年2月）」において、以下のような基本的考え方が示されている。多少引用が長くなるがその基本的な考え方を示しておく。

① 今回の改訂の基本的な考え方

ア 子供たちが未来社会を切り拓くひらくための資質・能力の一層確実な育成と、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の重視

イ 知識の理解の質を更に高めた確かな学力の育成

ウ 道德教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実による豊かな心や健やかな体の育成

② 育成を目指す資質・能力の明確化

③ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

④ 各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進

⑤ 言語能力の確実な育成、伝統や文化に関する教育の充実、体験活動の充実などについて教育内容の充実

このことを踏まえ、以下の3点について言及する。

1点目は、「自己評価」の重要性である。学生の幼稚園教育実習（現場実習）に取り組むうえでも自己評価を行い、省察するなかで自己の課題を明確にし、改善点やさらなる学びの視点や重要性

を理解することは有益なことである。

2点目は、学生自身の「主体的・能動的な学び」である。幼児教育における、子どもの「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指すためにも、学生自身が主体的・能動的な学びの実現と、その成果を自覚的に捉え、子どもに伝えていくことも重要である。

3点目は、「幅広い知識と技術の習得」である。伝統や文化、体験活動の充実を図るためには、幼稚園教諭自身の幅広い知識と技術、体験活動の経験に基づく深い学びが必要である。

以上のことを踏まえながら、幼稚園教育実習の授業やその他の学びを深めていくことが必要である。その中であって、学生自身が幼稚園教育実習（現場実習）での自己評価とこれまでの大学での学びを振り返り、学習ニーズを明らかにすることは意義あるものになるだろう。

さらに、文部科学省（2017）「教職コアカリキュラム」では、教育実習の全体目標の中で「教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。」と示され、幼稚園教育実習（授業・現場実習）を振り返り課題を自覚することが求められていると考えられる。

2. アンケート調査の概要

2.1. 倫理的配慮

本アンケート調査への協力は回答者（学生）の自由意思であり、同意が得られなくても何ら不利益（成績評価など）を受けることがないことを文書で伝えた。また、今回の調査目的以外には回答内容を使用しないこと、調査は無記名かつ、統計的に処理され、個人が特定されないことを文書で伝え回答をもってアンケート調査に同意した、こととした。

2.2. アンケート調査の対象

本アンケート調査の対象は本学こども専攻保育コース（以下、「保育コース」という。）4年生34名である。回答者・率は21名（回答率は61.8%）であった（表2参照）。

表2 調査対象者

対象者	回答者数(人)	回答率(%)
保育コース4年生	21	61.8%

2.3. アンケート調査内容

保育コース4年生前期(8月)の幼稚園教育実習(現場実習)終了後に google フォームを利用した無記名のオンライン調査を実施した。質問内容は以下のとおりである。

(1) 調査項目：以下に示す。

- ① 幼稚園教育実習(シラバス上)の授業の実習での役立ち度。「まったくそう思わない・そう思わない・どちらとも言えない・そう思う・強くそう思う」の5段階評価)
- ② 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習の役立ち度。「まったくそう思わない・そう思わない・どちらとも言えない・そう思う・強くそう思う」の5段階評価)
- ③ 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったことを具体的に教えてください。(自由記述)
- ④ 幼稚園教育実習(現場実習)の感想や意見があれば記入してください。(自由記述)
- ⑤ 幼稚園教育実習(現場実習)の自己評価を教えてください。「優れている・普通・努力を要する・不十分」の4段階評価)

以上、5つの質問に対する回答を分析した。

3. アンケート調査結果と考察

3.1. 「幼稚園教育実習(シラバス上)の授業の実習での役立ち度」について

幼稚園教育実習の授業が実習で役に立ったかについて、まったくそうは思わない、そう思わない、どちらとも言えない、そう思う、強くそう思う、の5段階評価の質問である。結果を表3に示す。

評価項目の1.～9.のすべての項目でそう思う、強くそう思うと回答した学生が16人(76.2%)から20人(95.2%)と高い評価を得ている。特に、「2. 実習の意義・目的(幼稚園実習の目的を再確認する)」「3. 指導計画の立て方(指導計画の立て方を再確認する)」「6. 実習上の諸注意(実習上の諸注意について再確認、オリエンテーションの準備をする。)」

「8. 実習の態度・マナー・身だしなみ、言葉遣いなど」は強くそう思う、そう思う、が20人(95.2%)の高い値を示している。幼稚園教育実習授業は現場実習でも多いに役立っていると考えることができる。

しかし、模擬保育、幼稚園教育要領の理解は低い値ではないが、どちらとも言えないが4人(19.0%)となっており、課題があると思われる。例えば、模擬保育の場合は、その実施方法や評価の方法によって学生の満足度にも差が出るのではないかと考えることができる。今後は、より多くの学生が積極的かつ主体的に模擬保育に取り組むことができる仕組みとその適切な評価のあり方も検討していくことが必要であろう。さらに、幼稚園教育要領の理解などは、普段の授業の中で、丁寧な指導が必要である。同時に、幼稚園教育要領を学ぶ意義やその内容が幼稚園教育実習(現場実習)で役立つことなど実践的な場面でも有益であることを伝えていくことが必要であると考ええる。

3.2. 「幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習の役立ち度」について

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習で役に立ったかについて、まったくそうは思わない、そう思わない、どちらとも言えない、そう思う、強くそう思う、の5段階評価の質問である。結果を表4に示す。

結果をみると、そう思う、強くそう思う、の高い評価としては、「6. 子どもの発達に関する科目(保育の心理学・発達心理学など)」「7. 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ(保育実習指導の授業が役立ったか)」が21人(100%)ですべての学生が高い評価であった。次に、「2. 音楽関係(ピアノやその他の楽器)」「8. 保育実習Ⅰ・Ⅱ(保育実習は役だったか)」20人(95.2%)であった。そして、「1. 保育技術(手遊び・運動遊びなど)」が19人(90.5%)となっている。

効果が低い数値ではないが、「5. 教職に関する科目(教育原理など)」が17人(81.0%)、「3. 社会福祉関連科目(社会福祉・子ども家庭福祉など)」が16人(76.2%)で、どちらとも言えない、が5人(23.8%)となっており筆者(永野)が担当する科目でもあることから、今後の授業の進め方

表3 幼稚園教育実習授業の実習での役立ち度（役に立ったかの確認）（N数・％）

項目/評価	まったくそう思わない		そう思わない		どちらとも言えない		そう思う		強くそう思う	
1. 幼稚園教育実習とは何かを再確認	0	0.0%	0	0.0%	2	9.5%	12	57.1%	7	33.3%
2. 実習の意義・目的（幼稚園実習の目的を再確認する）	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	12	57.1%	8	38.1%
3. 指導計画の立て方（指導計画の立て方を再確認する）	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	12	57.1%	8	38.1%
4. 実習までのこと（実習に行くまでのことについて再確認する）	0	0.0%	0	0.0%	3	14.3%	11	52.4%	7	33.3%
5. 実習日誌の書き方について（日誌の必要性について再確認する）	0	0.0%	0	0.0%	3	14.3%	10	47.6%	8	38.1%
6. 実習上の諸注意（実習上の諸注意について再確認、オリエンテーションの準備をする。）	0	0.0%	1	4.8%	1	4.8%	11	52.4%	9	42.9%
7. 模擬保育	0	0.0%	0	0.0%	4	19.0%	8	38.1%	9	42.9%
8. 実習の態度・マナー・身だしなみ、言葉遣いなど	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	9	42.9%	11	52.4%
9. 幼稚園教育要領の理解	0	0.0%	1	4.8%	4	19.0%	9	42.9%	7	33.3%

表4 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習の役立ち度（役に立ったかの確認）（N数・％）

項目/評価	まったくそう思わない		そう思わない		どちらとも言えない		そう思う		強くそう思う	
1. 保育技術（手遊び・運動遊びなど）	0	0.0%	0	0.0%	2	9.5%	10	47.6%	9	42.9%
2. 音楽関係（ピアノやその他の楽器）	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	12	57.1%	8	38.1%
3. 社会福祉関連科目（社会福祉・子ども家庭福祉など）	0	0.0%	0	0.0%	5	23.8%	10	47.6%	6	28.6%
4. 保育の専門科目（保育の5領域に関する科目）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	61.9%	8	38.1%
5. 教職に関する科目（教育原理など）	0	0.0%	1	4.8%	3	14.3%	14	66.7%	3	14.3%
6. 子どもの発達に関する科目（保育の心理学・発達心理学など）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	52.4%	10	47.6%
7. 保育実習指導Ⅰ・Ⅱ（保育実習指導の授業が役立ったか）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	52.4%	10	47.6%
8. 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育実習は役だったか）	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	11	52.4%	9	42.9%

や幼稚園教育実習（授業と現場実習共に）との関わりなど、学生が幼稚園教育実習（現場実習）に取り組む際に有益であることなど、保護者支援、子育て支援、子ども虐待などが幼稚園現場で注目されていることなど、伝えていくことも留意しておく必要がある。

これらの結果を受けて、幼稚園教育実習の授業以外の関連科目担当教員についても幼稚園教育実習（現場実習）に向けての意識の共有が必要である。授業の構成、それぞれの授業の関係性などについて共通理解しておくことも重要な視点であると思われる。さらに、普段から学生の情報、授業情報

をそれぞれの教員が理解して必要な場合は、教員間で情報発信し互いに協働して学生指導・支援を実施することが重要であろう。つまり、幼稚園教育実習（現場実習）は幼稚園教育実習の授業のみで構成されるわけではなく、それぞれの関連科目の総合的・多面的な理解のもとに実施されることが必要である。

また、上記以外の自由記述では「保育技術及び音楽関連」「子どもの発達や社会福祉関連」「総合的な学びの重要性」の3つのカテゴリに集約できた（表5参照）。カテゴリ1「保育技術及び音楽関連」では、「指導案作成」「ピアノを弾く機会が

表 5 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習の役立ち度(役に立ったかの確認) (自由記述の一部を記載)

カテゴリ1 保育技術及び 音楽関連	特に、保育技術や音楽関係では、実習で急に何かをやったと言われたときに、レパートリーがあったことでとても役に立った。また、保育の専門科目で、子どもの発達段階などを知っておくことで、指導案が書きやすくなった。
	ピアノの弾き歌いについて、器楽での講義や弾き歌いの実践がとても役に立ったと思う。また、子どもと関わる姿勢や声の掛け方なども保育の専門的な知識を学ぶ授業で学んでおいて役に立ったと思う。
	ピアノは実習で弾くことが多くて試験などで緊張に慣れておいたのは良かったと思います。
	教材を作る際に、視覚的に分かりやすくするためにどんな教材を使ったら良いかアイデアがたくさん出てきて、実際にその教材を使ってどう使っていくかを年齢に合わせて考えることができたと思う。
カテゴリ2 子どもの発達や社会 福祉関連	器楽のピアノの弾き歌いは役に立った。
	子どもの心理や発達、特別支援の学習は子ども一人一人を深く理解することに役立ったと思います。特に、診断はついていないけれど、保育者が毎日の関わりの中で子どもが困難としていることなどの支援に役立ったと思います。
	手遊びや子どもの発達について学んだことで、「手遊びをお願いします」に対してなど、瞬時に対応することができました。
	私が主に役に立ったと思う授業は、子どもの発達に関わるものと社会福祉に関わるものだ。なぜなら、どちらも子どもたちと関わる上で考える内面的な部分を学ぶことができたからだ。基本的な知識があることで、全体的にどう関わるのか、個別にはどう関わるのかなど、発達の基準となるものや子どもたちの発達の個人の差を把握しておくことで、実習では積極的に子どもと関わることができたと思う。
カテゴリ3 総合的な学びの 重要性	特別支援の授業の中で、支援が必要な子だけに限らず、子どもたちに伝えることを簡潔にすることや手順がわかりやすく、理解しやすいように教材を提示することなどは必要であり、現場でも活用できたと感じた。
	今までの学びが総合的に子どもたちと関わる際に活かされたと思います。振り返ってみると、学びのほとんどが活かされていたのではないかと思います。
	部分実習を行う際に、保育の5領域をを生かした取り組みを行う上で、各教科の学びが役に立った。
	教科書などには書かれていない、その場に応じた対応や、その場でしか味わえない雰囲気など

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて...ことを下記から選んでください。(複数回答可)

21 件の回答

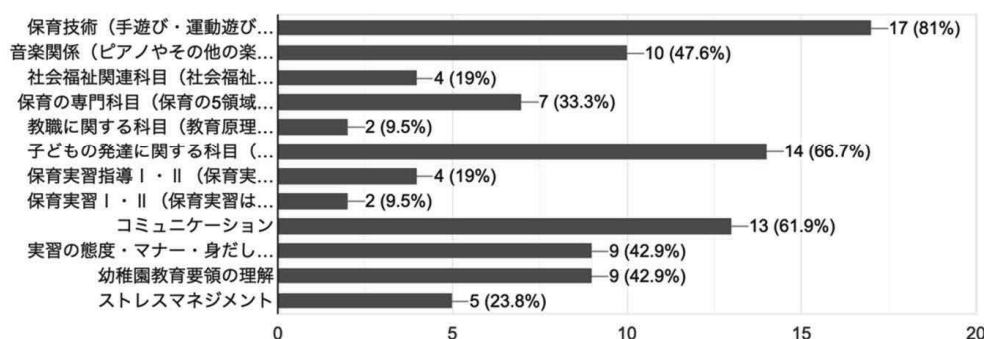


図 1 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったこと

多い」「教材作成」などがあげられた。カテゴリ2「子どもの発達や社会福祉関連」では、「子どもの心理や発達の理解」「子どもの発達に応じた手遊び(保育技術)」「発達を理解することで積極的に子どもと関わるができる」などがあげられている。カテゴリ3では、「大学での学びのほとんどが生かされる」「保育の5領域を学び活かす取り組みができる」「教科書以外でも場面に応じた対応ができる」などがあげられている。

このように、幼稚園教育実習の授業以外での学びを振り返った時に、保育技術や音楽、子どもの発達、社会福祉関連、総合的な学びなど多領域の学びの重要性を理解していることも推測できる。

3.3. 「幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったこと」

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったことを質問した。

表6 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったこと（自由記述の一部を記載）

カテゴリ1 保育技術と指導案 （日誌）の書き方	発声練習のやり方を特に学びたかった。 月案・週案・日案の書き方、オペレッタ、歌唱 ピアノは実習で弾くことが多くて試験などで緊張に慣れておいたのは良かったと思います。 絵本の読み聞かせやその前の導入の仕方 指導案の書き方をちゃんと学びたかったです。また、保育技能については学んだけど学び足りないです！
カテゴリ2 子どもの発達	子どもの発達について。複数の授業の中で取り扱われていたが、じっくりと学ぶ時間は少なかったように感じます。発達を学びその延長で模擬保育などを行えば、さらに学びが深まるのではないかと思います。 発達に応じた子どもたちへの具体的な声のかけ方などの支援の仕方を学びたかった。例えば、準備中に直ぐに別のことに関心が言ってしまう子に対しての具体的な関わり方を学びたかった。
カテゴリ3 リスクマネジメント や保護者支援など	保健のこと。緊急時の対応などを学んでおきたかったと思う。 保育士になってからの学びだけでなく、実習生としてはや保護者としてはどのような関わり方があるのかなど、立場別に考えるような学びもしてみたいと思った。

その結果を図1に示す。

上記、図1にあるように、幼稚園教育実習の授業以外の授業で学んでおきたかったことで最も多かったのは、保育技術（手遊び・運動遊び・絵本の読み聞かせなど）で17人（81.0%）であった。次に、子どもの発達に関する科目（保育の心理学・発達心理学など）が14人（66.7%）、実習の態度・マナー・身だしなみ、言葉遣いなど、が13人（61.9%）であった。そして、音楽関係（ピアノやその他の楽器・声楽など）が10人（47.6%）、実習の態度・マナー・身だしなみ、言葉遣いなど、幼稚園教育要領の理解が9人（42.9%）であった。

ストレスマネジメントが5人（23.8%）、社会福祉関連科目（社会福祉・子ども家庭福祉など）、保育実習指導Ⅰ・Ⅱは4名（19.0%）、教職に関する科目（教育原理・幼児教育に関することなど）、コミュニケーションが2名（9.5%）であった。

この結果から、学生が幼稚園教育実習（現場実習）で必要と考えているのは、保育技術や音楽関係であり、これは子どもと積極的に関わる際に重要な知識と技術であることから、子どもとの関わりを重要視していることが理解できる。また、子どもの発達に関する科目も子どもを理解したり、深い関わりにとって重要な要素であると考えることができる。つまり、幼稚園教育実習（現場実習）では、子どもとの関わりに焦点が当てられており、この点は幼稚園教育実習（現場実習）の目的にも合致しており、学生自身も適切な学びができていると考えることができよう。

さらに、実習態度のマナーや身だしなみなど、幼稚園教諭、保護者、子どもとの関わりなど、良

好な人間関係と社会関係を構築するためにも普段の生活態度や基本的な生活習慣などが影響を及ぼしていることも重要な視点である。この点についても学生は理解をしているように考えることができる。幼稚園教育実習の授業では、知識と技術と同時にマナーや身だしなみなどの教育も重要な意味を持つと考えることができる。

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったことを自由記述で具体的に尋ねると以下の回答があった（表6参照）。

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったことの自由記述を以下の3つのカテゴリに集約できた。

カテゴリ1「保育技術と指導案（日誌）の書き方」である。「発声練習のやり方を特に学びたかった。」「月案・週案・日案の書き方、オペレッタ、歌唱」「指導案の書き方をちゃんと学びたかったです。」などがあげられた。

カテゴリ2「子どもの発達」である。「複数の授業の中で取り扱われていたが、じっくりと学ぶ時間は少なかった」「発達を学びその延長で模擬保育などを行えば、さらに学びが深まるのではないか」「発達に応じた子どもたちへの具体的な声のかけ方などの支援の仕方を学びたかった」などがあげられた。

カテゴリ3「保健のこと、緊急時の対応」「実習生としてはや保護者としてはどのような関わり方があるのかなど、立場別に考えるような学びもしてみたい」などがあげられた。

このように、学生の声として、幼稚園教育実習

表7 幼稚園教育実習（現場実習）の感想や意見（一部抜粋）

手遊びのレパートリーが少なく、同じ手遊びを何度もすることしかできなかったで、もっと増やしていきたい
信頼関係の大切さを心から感じることができました。わたしは積極的に子どもと関わることが苦手だったのですが、四年生での貴重な実習なので、担当の先生の真似をしながら、クラス全員と話すことを心がけ、子どもとの約束を守るなど、誠実に丁寧にを目標に実習をしました
子ども同士のトラブルの際はお互いの代弁をしながら納得するまで話してみたり、挨拶の時に名前を必ず呼んでみたり、先生からのアドバイスをもとに自分なりに励みました
部分保育や、1日保育をさせていただいたのですが、事前の準備の大切さを改めて実感しました
子どもたち一人ひとりの発達に寄り添い、保育を行うことの難しさを感じました。また、子どもたちの実態に応じて、関わったり、環境を整えたりすることが改めて大切だとわかりました
学校での学びを活かして、指導計画をたてて部分実習もさせて頂けて、とても良い経験になりました
指導案で子どもの予想を立てるが、その通りには絶対行かず臨機応変に対応することが難しかった
部分実習をさせて頂けてスムーズにはいかなかったり時間を気にしすぎてとぼしてしまったり臨機応変に対応することの難しさを感じま
模擬保育では実習生としてどう部分実習をすることがいいのかを授業でやってみてよかったですと思う

の授業での学びを踏まえたうえで、やはり保育技術としてピアノや声楽、オペレッタ、絵本の読み聞かせなどの保育、幼児教育の基本をしっかりと学んでおくことの重要が指摘されたといえる。また、子どもの発達を理解した上で子どもと関わること、そのための具体的な声かけなど、子どもの成長を促す取り組みが求められていると感じているのではないだろうか。さらに、多くはないが、リスクマネジメントに関することとして、緊急時対応など学生時代に学んでおくことも重要である。同時に、実習生としての保護者との関わりなど、立場に応じた人との関わりも意識して学びに取り入れていくことの必要性も理解しているといえる。学生のこのような思いや意見を大切に教育や支援に繋げていきたいと考える。

3.4. 「幼稚園教育実習（現場実習）の感想や意見」について

幼稚園教育実習（現場実習）の感想や意見を質問している。ここでは回答についての考察を中心に述べる（表7参照）。

感想をみると、保育技術に関することとして、手遊びなどのレパートリーを増やしたい、信頼関係の大切さ、誠実に丁寧な対応、子どものトラブル対応、事前準備の大切さ、環境構築の重要性、指導計画・指導案の臨機応変な対応など、これまでに幼稚園教育実習の授業でも意識して学生に伝えてきたことであり、学生は一定の理解ができているように感じる。

このような幼稚園教育実習（現場実習）から次

の学びに繋げていくことができるように、振り返り、省察して、失敗を恐れず体験を前向きに捉え、卒業後の幼稚園、保育所、認定こども園など（以下、「保育施設」という。）への就職にも活かせるような取り組みができるとありがたい。

3.5. 「幼稚園教育実習（現場実習）の自己評価」について

最後に、保育コース4年生前期（8月）の幼稚園教育実習（現場実習）終了後に自己評価^{2) 3)}を行った。なお、今回は自己評価と幼稚園教育実習園の比較検討、評価については実施していない。

質問事項の1. ～ 5. の実習の基本的な項目については、「1. 出勤状況は良好だったか」は、20人（95%）が優れている、と回答している。また、「2. 基本的な礼法マナーが身についたか」は、7人（33.3%）が優れている、普通が14人（66.7%）であった。「3. 意欲的に実習に臨み協調して働くことができたか」は、10人（47.6%）が優れている、10人（47.6%）が普通、1人（4.8%）が努力を要するであった。「4. 勤務態度・身だしなみは良好であったか」は、18人（85.7%）が優れている、3人（14.3%）が普通であった。「5. 記録物の提出期日は守られたか」は、19人（90.5%）が優れている、2人（9.5%）が普通と回答している。

回答をみると、学生の幼稚園教育実習（現場実習）に関する基本的な事項である、マナーや基本的な実習態度については概ね優れていると自己評価していることが理解できる。2. 礼法マナーについては、自己評価が難しいのか、判断に迷いがあるように思われる。しかし、その他の項目は自

己評価でも優れていると回答しており、この項目では、自信を持って対応できていると考えることができる。

次に、6. ～ 10. 13. の子ども理解や関わりに関する項目では、「6. 子どもの発達の特長や特徴を理解できたか」は、9人(42.9%)が優れている、10人(47.6%)が普通、2人(9.5%)が努力を要するとしている。「7. 子どもに積極的に関わることができたか」は、16人(76.2%)が優れている、5人(23.8%)が普通であった。「8. 個別対応、集団指導などの場面に応じた援助ができたか」は、18人(85.7%)が普通、3人(14.3%)が努力を要するであった。「9. すべての子どもに配慮をしていたか」は、4人(19.0%)が優れている、15人(71.4%)が普通であった。「10. 個々の子どもを理解し適切な関わりができたか」は、15人(71.4%)が普通、6人(28.6%)が優れていると回答している。

この回答から、子ども理解に関することとして、子どもとの積極的な関わりは自分なりにできていると判断していることがわかる。つまり、子ども

との関わり的重要性は理解しているといえる。しかし、個別対応(個別の配慮なども含む)、集団指導などについては、普通と自己評価する学生が多く、子ども理解、子どもへの配慮については学習の機会を増やしていくことも必要であると考え

る。そして、11. ～ 17. の幼稚園の機能や役割、環境設定、指導計画、などに関する項目では、「11. 幼稚園の機能や教諭の役割について理解し、具体的な職務に対応できたか」は、14人(66.7%)が普通、5人(23.8%)が優れている、2人(9.5%)が努力を要するとしている。「12. 安全面・衛生面における環境設定に配慮できたか」は、13人(61.9%)が普通、8人(38.1%)が優れているとしている。「14. 保育技術・教材に対し研究熱心であったか」「15. 子どもの実態に沿った指導計画を立案しその指導を体験することができたか」は、10人(47.6%)が普通、9人(42.9%)が優れている、2人(9.5%)が努力を要するとしている。「16. 教材、教具を十分に活用できたか」は、13人(61.9%)が普通、6人(28.6%)が優れて

表8 幼稚園教育実習(現場実習)の自己評価(N数・%)

項目/評価	優れている		普通		努力を要する		不十分	
1. 出勤状況は良好だったか	20	95.2%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
2. 基本的な礼法マナーが身についていたか	7	33.3%	14	66.7%	0	0.0%	0	0.0%
3. 意欲的に実習に臨み協調して働くことができたか	10	47.6%	10	47.6%	1	4.8%	0	0.0%
4. 勤務態度・身だしなみは良好であったか	18	85.7%	3	14.3%	0	0.0%	0	0.0%
5. 記録物の提出期日は守られたか	19	90.5%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%
6. 子どもの発達の特長や特徴を理解できたか	9	42.9%	10	47.6%	2	9.5%	0	0.0%
7. 子どもに積極的に関わることができたか	16	76.2%	5	23.8%	0	0.0%	0	0.0%
8. 個別対応、集団指導などの場面に応じた援助ができたか	0	0.0%	18	85.7%	3	14.3%	0	0.0%
9. すべての子どもに配慮をしていたか	4	19.0%	15	71.4%	2	9.5%	0	0.0%
10. 個々の子どもを理解し適切な関わりができたか	6	28.6%	15	71.4%	0	0.0%	0	0.0%
11. 幼稚園の機能や教諭の役割について理解し、具体的な職務に対応できたか	5	23.8%	14	66.7%	2	9.5%	0	0.0%
12. 安全面・衛生面における環境設定に配慮できたか	8	38.1%	13	61.9%	0	0.0%	0	0.0%
13. 子どもに積極的に関わることができたか	16	76.2%	5	23.8%	0	0.0%	0	0.0%
14. 保育技術・教材に対し研究熱心であったか	9	42.9%	10	47.6%	2	9.5%	0	0.0%
15. 子どもの実態に沿った指導計画を立案しその指導を体験することができたか	9	42.9%	10	47.6%	2	9.5%	0	0.0%
16. 教材、教具を十分に活用できたか	6	28.6%	13	61.9%	2	9.5%	0	0.0%
17. 記録・報告の内容は的確であったか	6	28.6%	15	71.4%	0	0.0%	0	0.0%
18. 総合評価	7	33.3%	13	61.9%	1	4.8%	0	0.0%

いる、2人(9.5%)が努力を要するとしている。「17. 記録・報告の内容は的確であったか」は、15人(71.4%)が普通、6人(28.6%)が優れていると回答している。

この回答から、幼稚園の機能や役割、環境設定、指導計画、などに関する項目では、回答者の半数以上が普通と回答しており、実習の基本的な項目や子ども理解や子どもとの関わりに関する項目の評価が高い項目と比べても、普通と回答している学生が多かった。この点を踏まえて、幼稚園の機能や役割、安全管理、指導計画など、実践現場により近い内容についても学習機会を増やす必要があると考えることができる。

最後に、「18. 総合評価」は、13人(61.9%)が普通、7人(33.3%)が優れている、1人(4.8%)が努力を要する、であった。この結果を踏まえて、概ね、学生の多くが優れている、普通と回答していることから、自己評価は良好であったといえる。今後は、より多くの学生が自信を持って幼稚園教育実習(現場実習)に取り組むことができるような教育・支援を検討していくことを目指したい。

4. まとめと今後の課題

4.1. まとめ

本研究の目的は幼稚園教育実習の事前、事後指導を踏まえて、これまでの学びを振り返ることで、学生がこれまでの学習で「学んでおいて良かったこと」「もっと学んでおきたかったこと」など、学生の幼稚園教育実習における学習ニーズを明らかにすることである。

以下、アンケート調査の概要からまとめを示した。

① 幼稚園教育実習(シラバス上)授業の実習での役立ち度

幼稚園教育実習(シラバス上)授業は実習において十分な効果があるといえる結果となっている。

この結果を受けて、幼稚園教育実習の授業では、現場実習を意識すること、かつ、実習に向かう心構えやマナー、接遇など、授業以外に普段の生活上、心がけることなど、学生が理解できるように丁寧に伝える工夫をしていきたい。普段の生活が実習に直結していること、実習の時だけ頑張れば

できるのではないこと、などを授業の中でも伝えていきたい。

② 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、実習の役立ち度

幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びでもほとんどが高い評価となっていた。

この結果から、子どもの発達を学ぶことの重要性が理解できる。また、幼稚園現場では音楽に関する技術、保育技術が当然、求められることもわかった。さらに、幼稚園教育実習に出るまでの、保育実習が現場実習として子どもとの関わり、保育所実習など組織での仕事をする上での保育士の役割など、役立っていると考えることができる。

③ 幼稚園教育実習の授業以外の授業での学びについて、もっと学んでおきたかったこと

幼稚園教育実習の授業以外の授業で学んでおきたかったことで最も多かったのは、保育技術(手遊び・運動遊び・絵本の読み聞かせなど)、子どもの発達に関する科目(保育の心理学・発達心理学など)、実習の態度・マナー・身だしなみ、言葉遣いなど、であった。

この結果をみると、幼稚園教育実習では、子どもとの関わりの重要性や子どもと関わる手立てとして、手遊び・運動遊び、絵本の読み聞かせなどの保育技術が有効であることを学生は学んでいるように思う。よって、さらに保育技術を高いレベルに保ちたい、さらに強化したいと考えているのではないかと考えられる。

④ 幼稚園教育実習(現場実習)の感想や意見

以下に一部の感想から考察としてまとめたい。1つ目は、子どもと関わる際の「保育技術のレパートリーを増やす」ことである。子どもの興味関心を引きつけることができることが大切であることを学んでいるのであろう。子どもとの関わりの際に大切な視点である。

2つ目は、「信頼関係の構築」である。これは、子ども、保護者、幼稚園教諭、その他の関係者だけでなく、他者との良好な人間関係を築き、揺るぎない信頼関係を作り上げていくためには、約束を守ること、誠実さと丁寧さが必要であることが示唆されている。筆者(永野)が専門分野とする人間関係論でも通じるところであり、今後は幼稚園教育実習の学びの中で人間関係に関する知識と

技術を伝えていきたい。

3つ目は、指導案や日誌の書き方、模擬保育など「事前準備（事前学習）」の重要性である。全日実習や部分実習、子どもとの関わりなど、すべてにおいて事前のどの程度学んでいるか、準備しているかが結果に影響する。これは、幼稚園教育実習に限ったことではないが、学生が事前準備の重要性に気づいたことは有益である、と考える。丁寧かつ詳細、そして、多くの事案、事象からトラブルや場面の変わり方、突発的事態、など事前に想定できることを踏まえて、事前準備、学習することの大切さを学んでいると思う。

このように、学生は幼稚園教育実習（現場実習）を通じて多くのことを学んで来ている。今後もこのような振り返り（省察）を繰り返していくことが重要である。例えば、ただ失敗を悔いるのではなく、「なぜ上手くいかなかったのか、どうすれば上手くいくように改善できるか、そして、次回は〇〇のように挑戦してみよう」など、PDCA⁴⁾（Plan Do Check Action）サイクルで学びを深めることも大切である。

⑤ 幼稚園教育実習（現場実習）の自己評価

学生の自己評価は、全ての項目で概ね良好（優れている、普通）であった。しかし、礼法マナー、意欲、協調性については半数以上が普通、努力を要すると回答するなど、課題も指摘できる。つまり、決まったことを守ることはできているが、自分で考えて行動する、その行動の技術（マナーや身だしなみ）は未成熟であると考えられる。

また、子どもとは積極的に関わることができるが、個別対応など子どもの発育発達を踏まえて、子どもの状況を勘案しながら保育や幼児教育実践となると自信が持てない学生が多いと考えることができる。

4.2. 今後の課題

本研究は幼稚園教育実習における学生の学びの振り返りから今後の学生への学習指導・支援に繋げることを目的としている。

以下に、3つの課題を述べる。

1点目は、「標本数（対象者）の少なさ」である。今回は本学4年生の60％程度の回答率である。よって、本研究を一般化することは困難である。

今後は、保育実習やその他の実習から学びの振り返りを題材により多くのデータを集め、学びの達成度や学びの課題などを測定できるような尺度作成も行ってきたい。

2点目は、「学生へのフィードバック」である。調査対象者が4年生で幼稚園教育実習のすべてを終えている。本来であれば、この調査の結果を受けて、次回の幼稚園教育実習（現場実習）に取り組む際の、指標になることが望ましい。今後は、3年生の1回目の幼稚園教育実習（現場実習）で調査を行い、この結果を4年生の幼稚園教育実習（現場実習）に活かせるように工夫する必要がある。

3点目は、「幼稚園教育実習の自己評価と事前の学習に関する主観との関連性」である。幼稚園教育実習（現場実習）の自己評価とこれまでの事前の学習がどのような関連性を持っているのか、要因分析が必要だと考える。どのような事前学習が幼稚園教育実習（現場実習）の自己評価の向上につながるのかも分析していきたい。

以上、これらの課題を次回の研究では解決できるような手立てを講じていきたい。また、本研究の結果は普遍化、一般化することは困難であるが、幼稚園教育実習の授業やその他の関連科目の授業でもこの結果を踏まえて、学生に授業や普段の生活など、事前準備の重要性を示唆することもできる。この点は本研究の成果であると考えられる。

注

- 1) ここでいう、幼稚園現場実習の実習先は、「幼稚園、幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園」である。
- 2) 保育所実習における学生に自己評価からみた実習指導内容の検討がある。「山田朋子・那須信樹・森田真紀子『保育所実習における学生の自己評価からみた実習指導内容の検討—大学・短期大学学生の評価結果の分析を通して—』中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要、42、225-236、2010。」に詳しい。
- 3) 幼稚園教育実習における自己評価と幼稚園現場からの評価の考察も重要である。また、実習評価項目と実際の実習の内容の精査も重要な視点である。この研究は「石田開『幼稚園教育実習における実習先による実習評価と当該学生の自己評価との比較：実習評価項目見直しへの手がかりとして』岐阜聖徳学園大学

短期大学部紀要, 51, 15-29, 2019.」の研究に詳しい。

- 4) PDCA には批判的な見解もあるが、現在でも計画し実行する、それを評価し、改善することは重要な視点である。

文献

文部科学省（2017）「教職課程コアカリキュラム

の在り方に関する検討会 教職課程コアカリキュラム（平成29年11月17日）」（https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/11/27/1398442_1_3.pdf 2021.9.26）.

文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説（平成30年2月）」（https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf 2021.9.7）.

（受稿：2021年7月15日，受理：2021年10月28日）

Awareness survey on student learning in kindergarten educational training

Tenji NAGANO・Chikayo KOUZAKI

The purpose of this study is to clarify the learning needs of students in kindergarten education training by looking back on the learning so far based on the pre- and post-guidance of kindergarten education training. A questionnaire survey was conducted on the students after the kindergarten training, such as the degree of usefulness and goodness of learning about "learning of kindergarten training" and "learning other than kindergarten training", and "self-evaluation of kindergarten training". As a result, the lessons of the kindergarten education training were useful, especially the significance and purpose of the training, how to make a teaching plan, and various precautions in the training field were high values. In addition, in learning other than class, subjects related to child development, childcare training guidance, music-related subjects, etc. were highly useful.

Key words: learning needs kindergarten education training Useful